厄除祈願

一般に数え年で男性は二十五・四十二・六十一歳、女性は十九・三十三・三十七歳が厄年です。中でも男性の四十二歳、女性の三十三歳は大厄とされ、その前後を前厄・後厄といいます。

心身共に熟年に達し、社会的・家庭的・肉体的な変調や転機の時期であり、重要な節目になることが多いので、これらの歳を災いの多い年とするのは、単なる迷信とも思えません。こうした時、神前に参詣して自ら心を引き締め、誓いと覚悟を新たにすることは非常に意義のあることでしょう。

令和五年厄年表（数え年）

男性	女性
平成12年生 25歳	平成18年生 19歳
昭和59年生 41歳（前厄）	平成5年生 32歳（前厄）
昭和58年生 42歳（本厄）	平成4年生 33歳（本厄）
昭和57年生 43歳（後厄）	平成3年生 34歳（後厄）
昭和39年生 61歳（還暦）	昭和63年生 37歳

※当社では**節分（二月三日・土）**に厄除祈願を行っております。

午後九時まで随時受付

尚、当日ご都合の悪い方はお電話にて他の日を御予約下さい。

節分・恵方

節分と聞くと「豆まき」や「恵方巻」を連想しますが、節分とは季節の節目である「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日を指します。なかでも二十四節気では春が一年の始まりであることから、「立春」の前日である春の「節分」が重要視されました。

恵方とはその年の十干（じっかん）によって定められる、最もよいとされる方角のこと。特に恵方にはその年の福徳を司る神、歳徳神（としとくじん）がおられるとされています。

その年の恵方を向いて願いを心の中で唱えながら無言で食べる恵方巻は、関西初の風習とされていますが、近年は全国でこの行事が親しまれています。恵方の方角は毎年かわります（下表参照）。今年の恵方はどちらの方角かな、と心を寄せるだけでも気持ちがよいですね。

十干は古くから物の分類や順番を表すのに使われてきました。十干と12種類の動物を当てはめた「十二支（じゅうにし）」を組み合わせて作られたのが「十干十二支」＝干支（えと）です。例えば「丙午（ひのえうま）」は丙（ひのえ）（十干）と午（うま）（十二支）を組み合わせた年を表します。

十干

甲 きのえ	乙 きのと	丙 ひのえ	丁 ひのと	戊 つちのえ
己 つちのと	庚 かのえ	辛 かのと	壬 みずのえ	癸 みずのと

恵方はその年の十干によって、次の4種類の方角から決まります。

- 甲・己（西暦の下1桁が4・9）……東北東
- 乙・庚（西暦の下1桁が5・0）……西南西
- 丙・戊・辛・癸（西暦の下1桁が1・3・6・8）‥南南東
- 丁・壬（西暦の下1桁が7・2）……北北西

こんどの恵方はどっち向き？

私たちの暮らしの中の氏神さま

氏神さまって？

皆さんの住んでいる地域には、必ずその土地を守ってくださっている神さまが祀られています。それが皆さんの毎日の生活に深い関わりを持っている地域の神社＝氏神さまです。

往々にして氏神神社という呼び方を耳にしますが、「氏神神社」という名前の神社ではなく、氏神さまの神社を意味します。その名の通り、氏神さま、同じ氏を持つ人々の神さま、ということです。

氏神さまはもともと古代の生活集団として血縁関係にある同族団の祖先神で、その氏族の守り神として祀ったのがはじまりです。血縁関係にない人たちでも血縁のような強い絆で結ばれていたりすると、氏神さまを共同でお祀りし、お互いの連携感を強固なものにしていきました。

また、氏神さまといっても祖先を神さまとしてお祀りするものばかりでなく、その氏族に由緒の深い神さまをお祀りすることもありました。

氏神さまと産土神

氏神さまとは別に産土神と呼ばれる神さまもいらっしゃいます。

産土というのは、産声とか産着とかいうように誕生を意味する「ウブス」と、土地を意味する「ナ」という語がつながって作られたともいわれ、人の生まれた土地を指す言葉です。

ですから産土神は、その人の生まれた土地を守ってくださる神さま、その土地の守護神です。また、結婚や仕事で他所に引っ越したとしても、自分の一生を通じてお守りくださる神さまでもあります。

農耕社会の古い時代にあっては、人々が移住することはほとんどなく、自分の生まれた土地で一生を終えることが大半でした。

氏神さまが、いうならば血縁集団の守護神から地縁集団の守護神へと移行していきます。その流れの中で鎮守神と産土神は同じような性格でしたから、地域の人々の暮らしの中で段々と混同されるようになり、時代の変遷とともに同じ意味で使われるようになりました。

こうしたことから、現在では一般に産土さまも氏神さまと呼んでいます。村落社会が祀った地域の神さまをも含んで氏神さまというのは、氏神さまがもともと氏族の祖先神、守護神であったことを思えば、神さまと私たちとの親しいつながりを表しているといえるでしょう。

国旗・神棚は当社でもお頒ちしております。（国旗一セット 二千円・神棚 各種）